

1. 学校名 岡山市立岡山後楽館高等学校

2. 活動名 高校生による「海で暮らす匠への聞き書き」～海と山をつなぐ～

3. 実践の概要・ねらい

概要

「聞き書き」とは、高校生が人生の先輩を訪ね、知識や技術、ものの考え方・生きざまなどを聞き、話しことばだけで文章にまとめる活動である。海に関する「聞き書き」を行っている高校と、山をテーマとした「聞き書き」を行っている高校が連携して、合同で研修会や発表会を行い、海と山との相互理解を図ることを目的とした活動に、本校も参加した。

ねらい

○海洋についての理解の深化および啓蒙

「聞き書き」を通して、海についての理解を深め、発表会や聞き書き冊子の発刊等により、多くの人に海について知ってもらう機会とする。

○海と共生できる人材の育成

「聞き書き」で得た間接的な経験を通じて、人間性の涵養や享受の自然観について学び、海との共生に求められる資質・能力を育む。

○アクティブラーニングの実践

「聞き書き」を通じて、生徒一人一人が主体的・対話的・協働的に取り組むことで、より深い学びの実践を目指す。

4. 実践計画

①活動計画、教科などとの関連

活動計画

- 6月 1～3年生を対象に高校生による「海で暮らす匠への聞き書き」の参加希望者5名程度を募集
- 6月 「聞き書き」研修会&「森聞き」上映会
- 7月 「聞き書き」実施
- 8月～10月 作品作成（テープ起こしから文章構成）
- 10月 文章構成研修会&海と山のつながりを理解するプログラム
- 10月～12月 作品作成（文章構成）
- 12月 「聞き書き」フォーラム&振り返りワークショップ
- 2月 成果物冊子完成

教科などとの関連

希望者対象の活動のため、教科との関連はあまりなく「課題研究」の1つと考えている。

②実践の評価について

メンバー校や連携機関とうまく連携し、打ち合わせなども頻繁かつ綿密に行いほぼ計画通りに実施できたため、実践の評価は高いと考えている。本校は昨年度より「森づくりと環境学習」のオリジナルのプログラムを持っているため、10月に実施予定の海と山とのつながりを理解するプログラムには参加していない。

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

10月に実施予定であった、文章構成研修会&海と山のつながりを理解するプログラムを変更した。文章構成研修会は9月に、海と山とのつながりを理解するプログラムは7月に、本校独自のプログラムとして実施した。

②実践の成果

高校生による「海で暮らす匠への聞き書き」の参加希望者を募集し、本校からは2年生4名、3年生2名の参加が決定した。

平成29年6月24日に、NPO法人共存の森ネットワーク理事長澁澤寿一氏と岡山大学地域総合研究センター教授前田芳男氏を講師として、「聞き書き」についての研修会を行い、「聞き書き」を行う意義やその手法について学んだ。

7月29日～7月30日に笠岡市高島において、海・山・川と関わって生活をしている人を対象とし、「聞き書き」を実施した。さらに、海洋への理解を深めるために、澁澤寿一氏を講師として山・川の機能と海とのつながりに関する学習会を行った。また、笠岡市白石島で暮らす原田茂氏を講師として、海ゴミに関する学習も実施した。砂浜に打ち上げられるゴミはスーパーの袋やペットボトルが多く、「ほとんどが川から流れてきているものということ」、「山の栄養が川に流れ、海の生き物を育てていること」などを学んだ。森を整備する人が減少して漁業者が森を整備するなど人手が不足していることを聞いた生徒もいた。生徒の感想の中に、「『聞き書き』をしたことで、少し自分が成長したような気がする。印象に残ったのは『今しか聞けない話がある。他人にしか聞けない話がある。私にしか聞けない話がある。』ということで、自分にしかできない『聞き書き』しようと思った。目と耳と心で人生の先輩の話聞き自分のこれからの人生に生かしていきたい。」というものがああり、実際に匠への聞き取りを行うことで、生徒一人一人が主体的・対話的・協働的に取り組む態度が育成されてきている。



聞き取り実施後に、テープ起こしによる文章作成作業を行い、書き起こした文章を持ち寄り、文章構成に関する研修会を9月に行った。研修会には、「聞き書き」に参加した生徒が集まり、書き起こした文章を読み直して、小見出しをつけたり何を中心にとまとめるかを考えたりした。文章構成等が決定すると一つの物語

となるように生徒一人一人が文章作成を行った。この活動を通して、表現力や読解力等は明らかに向上している。

12月23日に、参加した生徒による「聞き書き」の成果発表会と振り返りのワークショップを行った。成果発表会は、「聞き書き」の話し手や一般の方も参加可能とし、多くの方に海洋について知ってもらう機会とした。完成した文章は一つの冊子にまとめ、「聞き書き2017」として出版する。

海に関する「聞き書き」を行っている生徒と希望者が中山間地域である真庭市の津黒高原で、7月17日に「森づくり体験と環境学習」を行った。「旭川水系の上流と下流の違いから水の循環についての理解を深める」「整備による森の持つ多面的な機能復活に関する理解を深める」「持続可能な社会の構築に向けた意識の向上を図る」という三つの活動を目的とし、本校生徒1・2年生26名が参加した。夏の「真庭トンボの森」で、森の機能・役割・森づくりに関する講義や、笹刈り・地ならし・除伐・木の運搬・ヒノキの皮むきなどの森づくりの作業、さらにハンモック体験やネイチャーゲーム等森を楽しむプログラムの体験を行った。「森と人が関わらなくなったことで森が機能しなくなったこと」「便利な生活を追求することによって資源の枯渇や地球温暖化が進んでいること」「薪ボイラーを使うことで地域内で経済が活性化すること」などを学び、森や自然を保護することについて考える良いきっかけとなった。山について学ぶことで、海についての理解をより深めることができた。

また、本校では学校の横を流れている西川やその周辺を清掃する「西川クリーン作戦」を毎年実施している。この活動は、実際に川に生息する生き物や、投棄されたゴミにふれることを通して自然環境と人間との関わりについて考える良い機会となっている。

一連の活動を通して、意識の高まった生徒が集まり、西川の環境保全活動の一つとして岡山市主催の歩行者天国で定期的に西川の魚や生き物を水槽展示したり、山川海のつながりを展示したりする「西川水族館」の活動を始めた。この活動を通して、西川の自然の豊かさや川の環境を守ることの大切さや、山川海のつながりを多くの人に伝えていきたい。また、今後は「西川水族館」の活動の幅を広げたり、活動に参加する生徒も増やしていきたい。

③次年度への課題

次年度も「聞き書き」で海についての学びを、「西川クリーン作戦」や「西川水族館」で川についての学びを、「森づくりと環境学習」で山についての学びを深め、それぞれの学びを関連づけることで山川海のつながりをしっかりと理解できる生徒を増やしていきたい。さらに、生徒が山川海のつながりを外部に情報発信していく機会も増やすことができると考えている。



6. 主な連携機関及び内容

備中「聞き書き」実行委員会：「聞き書き」の指導

一般社団法人高梁川流域学校：「聞き書き」の指導

NPO 法人共存の森ネットワーク：「聞き書き」の指導及び持続可能な社会について

岡山大学：「聞き書き」の指導

チーム koduti：「聞き書き」の指導

2～3年生 高校生による「海で暮らす匠への聞き書き」～海と山をつなぐ～

全体概要

「聞き書き」とは、高校生が人生の先輩を訪ね、知識や技術、ものの考え方・生きざまなどを聞き、話しことばだけで文章にまとめる活動である。海に関する「聞き書き」を行っている高校と、山をテーマとした「聞き書き」を行っている高校が連携して、合同で研修会や発表会を行い、海と山との相互理解を図ることを目的とした活動に本校も参加した。

活動の目的

○海洋についての理解の深化および啓蒙

「聞き書き」を通して、海についての理解を深め、発表会や聞き書き冊子の発刊等により、多くの人に海について知ってもらう機会とする。

○海と共生できる人材の育成

「聞き書き」で得た間接的な経験を通じて、人間性の涵養や享受の自然観について学び、海との共生に求められる資質・能力を育む。

○アクティブラーニングの実践

「聞き書き」を通じて、生徒一人一人が主体的・対話的・協働的に取り組むことで、より深い学びの実践を目指す。

主な連携機関
備中「聞き書き」実行委員会
NPO法人共存の森ネットワーク
岡山大学

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		<p>6月「聞き書き」研修会・「森聞き」上映会 (体験的・探究的活動)</p> <p>①「聞き書き」の手法(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き書き」とはどのような取り組みかを学ぶ。 ・持続可能な社会とは、何が続いていく社会なのかを考える。 <p>②「聞き書き」についてのワークショップ」(1.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き書き」作品ができるまでの流れを学ぶ。 ・沈黙の時間を作らないために聞く練習を行う。 ・実際に相手に聞く質問を考える。 <p>③「森聞き」上映会(2.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオの中で、高校生たちがどんな質問をしていたかを振り返る。 ・話し手の生きざまで感動したことや、どんな技術や知恵を持っていたかを振り返る。 ・「聞き書き」本番に向けて聞きたいことを準備する。 	<p>7月「森づくりと環境学習」(5) (体験的・探究的学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森を整備する体験を通して、海と山とのつながりを理解する。 <p>7月「聞き書き」宿泊研修会 (体験的・探究的学習)</p> <p>①白石島について(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白石島での生活についての現状を知り、自分たちとの違いを考える。 <p>②「聞き書き」本番(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手の方から、知恵や技術、ものの考え方や生きざまなどを聞き、話し手の思いを感じ取る。 <p>③「海と山とのつながり」について(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山・川の機能と海とのつながりについて学ぶ。 <p>④「聞き書き」本番の振り返り(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き書き」の内容と印象に残ったことを振り返る。 <p>⑤海ごみについて(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海ごみの話を聞き、地域の現状をとらえる。 <p>9月文章構成研修会(2)(表現活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成について学び、自分の作品を作成する。 	<p>12月「聞き書き」フォーラム (探究的活動・表現活動)</p> <p>①振り返りワークショップ(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き書き」を通して学んだこと、自分が成長したことを説明する。 <p>②トークセッション(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会とは何か、なぜ今「聞き書き」は必要かを考える。 <p>③成果発表(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの「聞き書き」の成果を、魅力的に発表する方法を考え、実行する。 ・メンバー校の取組についての成果発表を聞き、情報を共有する。 <p>2月「聞き書き」冊子の作成 (表現活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自作品を完成させ、全員の作品を1つにまとめ、冊子として出版し、外部へ情報を発信する。 							